



ごあいさつ

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。いつも<にっしん>をご利用いただきまして心より厚く御礼を申し上げます。

さて、平成24年度の国内経済は、欧州の財政・金融危機の深刻化、中国経済の減速、円高などにより景気は弱含みの推移となりましたが、昨年末以降は新政権が掲げるデフレ脱却への政策や、日本銀行による積極的な金融緩和策への期待感から、円高の修正や株式市況の回復など明るい兆しが見え始めました。しかし、景気の回復を実感するまでには至っておらず、私どもの主要な取引先であります中小企業においては長期に亘るデフレの影響や原材料費等の増大など依然として厳しい状況にあります。

このような中、当金庫の平成24年度の業績は、預金残高は6,607億円となり前期比31億円の増加となりました。前期比増加は3年ぶりであります。これは西宮今津支店の新店舗開設と宇治川支店の新築建て替えを記念した「タコちゃん定期預金」の発売をおこない、大勢のお客様にご利用していただいたお蔭であると心より感謝しております。一方貸出金残高は、営業を強化し地域の要望にお応えするよう積極的に取り組んでまいりましたが、2,998億円となり前期比109億円の減少となりました。

収益面につきましては、貸出金・有価証券の残高の減少、貸出金利回り・市場金利の低下により一般企業の売上高に当たる業務収益が前期比20億円の減収となり、不良債権処理費用が13億円と多額な水準にありました。しかしながら債券の売却益が寄与し、当期純利益は477百万円を計上することができました。

不良債権につきましては、本部態勢の強化を図りお客様と一体となって企業再生・経営改善支援に取り組み、成果は着実に現れてきています。しかしながら積極的な貸倒引当をおこなったことにより、不良債権は8億円増加し、不良債権比率は8.17%となりました。貸出金の減少を受けて高い水準となっておりますが、不良債権に対する引当等は十分に行なっております。また、自己資本比率は11.05%と国内基準の4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性は十分に堅持しております。

<にっしん>は、地域金融の円滑化に全力を傾注して取り組んでまいります。昨年11月には産学連携の協定を締結し、お客様が必要とされる情報・技術の提供に努めてきました。また、産学連携を強化することで人材育成や情報交換の場を作り、地域活性化支援に取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも「地域社会に密着し、お役に立つ信用金庫として信頼される」を旨とし、変化の激しい経済環境の中ではありますが、<にっしん>は常に変わりなく、地域の皆様に喜んでいただける金融サービスの提供や課題解決型金融の推進を役職員一丸となって懸命に取り組んでまいります。

従来にも増してご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 7 月

理事長 和田 吉正